◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け）　令和5年版

0　読書・雑書

064　読書会という幸福

向井　和美/著　岩波書店 2022 年 225p

本はひとりで読むもの、と考えていた著者が出会った「読書会」。同じ本を読み、自由に語り合い、30 年近く続いてきた。自分では手を出さない本や途中で挫折しそうな本も読めてしまう。ほかの人の意見を聞くことで、自分では思いもしなかった視点が得られる。読書会の利点をそう語る著者は、別の読書会に潜入したり、司書として中高生の読書会を主催したりする。

「本を語ることは人生を語ること」という読書会への思いが詰まった一冊。

9　詩歌・随筆・記録・外国文学

9403　瓢箪から人生

夏井　いつき/著　小学館　2022 年　335p

ふるさと、内海村（現愛南町）での子ども時代、何年も受け入れることのできなかった父の死。2001 年に始まった5分（現在は 10 分に昇格）の南海放送ラジオ番組、「高校生に俳句の悪口を言わせ合っている」とバッシングの嵐に晒された「俳句甲子園」、NHK「俳句王国」、「プロフェッショナル　仕事の流儀」、そして毎日放送「プレバト!!」等々。

俳句の種を撒きつづけ、裾野を広げてきた筆者の、笑いあり涙ありの珠玉のエッセイ。

5　暮らしの科学

558　おいしい子育て

平野　レミ/著　和田　誠/絵　ポプラ社　2022 年　173p

料理愛好家の著者が綴る、料理と子育てのエッセイ集。料理を楽しむ秘訣や日々の生活での子どもとのエピソードが満載。簡単で美味しい！家族が笑顔になるレシピも必見の一冊。エピソードを飾る絵は、夫でイラストレーターの故・和田誠氏。第9回料理レシピ本大賞 in Japan エッセイ賞受賞。『笑顔がごちそう』（1997 年　講談社刊）を大幅に加筆・修正。

F　小説

F596　おいしいごはんが食べられますように

高瀬　隼子/著　講談社　2022 年　152p

料理に時間をかけなくてもコンビニで簡単に食べ物を手に入れられる現在。カップ麺を胃に流し込むだけで満足と思っている二谷、料理や菓子作りが上手だが、仕事は周りの支えが必要な芦川、そんな彼女を当たり前に受け入れている周りに不信感を抱く押尾。登場人物の食に対する多様な考えを背景に、職場での人間関係に、冷や冷やドキドキさせられる作品。職場で連続する事件の真相にも冷や汗。著者は新居浜市出身。第 167 回芥川賞受賞作。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け）　令和5年版

F　小説

F597　黒牢城

米澤 穂信/著　KADOKAWA　2021 年　445p

時代は戦国の世。織田家に謀反した荒木村重（むらしげ）は、後に兵庫県伊丹市となる地に構えた有岡城に立て籠っていた。ここに一人の男が来る。名は、黒田官兵衛。「この戦、勝てませぬぞ」と言い放つ官兵衛を、村重は地下牢に幽閉する。独り武略を巡らす村重は、城内で起こる奇怪な事件の謎解きを、捕らえた官兵衛に求め始める。ミステリーで歴史を描く、第 166 回直木賞受賞作。

F598　塞王の楯

今村 翔吾/著　集英社　2021 年　552p

幼い頃に落城で家族を失った穴太衆の石工・匡介（きょうすけ）は、絶対に破られない石垣を造ることを目指す。そこに、どんな城も落とす砲を追求する国友衆の鉄砲職人・彦九郎が立ちはだかる。関ヶ原の戦いを目前にした大津城を舞台に、それぞれの立場で共に戦のない世の中を目指した職人の盾と矛が激突する！第 166 回直木賞受賞作。

F599　夜に星を放つ

窪 美澄/著　文藝春秋　2022 年　220p

ノスタルジックかつリアルな描写で展開していく短編集。大人と子ども両方の視点で、恋愛、死別、離婚、不登校など、日常の中にある様々な出来事が描かれる。感情や思いが交錯し、悩みつつも、それでも人は前に歩み出そうとする。いつの間にか話の中に引き込まれ、どことなくやるせない気持ちとささやかな幸せが余韻として残る。第 167 回直木賞受賞作。